（様式２）

令和3年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和　3 年　　12 月　　27 日

国際交流推進センター長　殿

下記のとおり報告します。

1. 国際研究集会名	ISHIK2020・2021		
2. 事業責任者 （申請者）	後藤隆太郎	3. 所属・職名	理工学部・准教授
4. 開催期間	令和 3 年　11 月　20 日 ～ 令和　3 年　11 月　21 日		
5. 参加者数 ※参加者名簿（様式任意）を添付	参加者数　74　名 うち、外国人数　28 名、学生数　10　名（修士課程以上）		
6. 支援金額	金 額　200,000 円		
7. 招待講師	所 属　北京航空航天大学（中国） 職 名　教授 氏 名　張丽（麗）		
8. 謝金支出額	金 額　138,000　円		

9. 国際研究集会の内容

ISHIK 2020-2021(The 10th International Symposium on History of Indigenous Knowledge)は、今回オンライン参加（一部対面）の国際シンポジウムとして、日中それぞれから基調講演（2件）、加えて計24件の研究発表（中国13件,日本11件）、計26件の講演発表を行った。

今回で10回目を迎え、これまで日本側（佐賀大学を中心とし、福岡大学他、複数大学の研究者等）と中国側（中国社科院世界経済与政治研究所はじめ多数の大学研究者）が、両国で交互に開催しており、主として「科学技術と経済社会の発展に向けた在来知歴史学的研究」をテーマとし、これまで10年以上におよぶ日本と中国等近隣諸国との研究交流活動の積み重ねの上に今回も実施できる意義深いものとなった。

なお、今回、日中両国の研究発表者に加え、オンライン会議等の参加を募り、関係する佐賀大学等院生や一般からも参加があった。

10. 特記すべき成果・波及効果

この取り組みは、佐賀大学SDGsプロジェクト研究所（在来知歴史学研究プロジェクト）の主な活動であり、今回の国際シンポジウムでは在来知歴史学をテーマとする論文を計26編からなる論文集を刊行し、あわせて発表および討議を行うことができた。

コロナ禍の影響でオンライン会議となったが、両国研究者の活発な論議ができ、これまでの日中研究交流を継続することができた。加えて次年度の国際シンポジウムの開催（主幹：中国側）についても期間中の総会にて討議し、今後に繋がる有意義な国際研究交流が実施できた。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。